

発達障害者支援アセスメントツール研究会 活動のまとめ(平成30年度)

【第1回】平成30年10月18日(木) … 取り組みの目標、研究課題について

1 取り組みの目標

- ・ 発達障害の特性評価に係る「共通の仕組み」の確立  
⇒ 発達障害児者の支援に携わる市内の関係者・関係機関等が、共通のアセスメントツールを用いて基本特性の評価を行い、その結果を多職種の支援者が共有することで支援の質の向上を図り、次のライフステージへ円滑に引き継がれる仕組みを構築する。

2 障害福祉サービス事業所へのアンケート

- ・ アセスメントツールを使用している … 12.7%
- ・ 発達障害児者を支援する上で困っていることがある … 84.5%  
→ (内訳) 特性をどう評価すればよいかわからない(33.3%)  
こだわり行動やパニックなど行動問題への対応の仕方がわからない(32.6%)

3 研究課題

- ・ MSPA（発達障害の要支援度評価尺度）を活用した特性評価と多職種による支援の仕組み

【第2回】平成31年1月29日(火) … 市内アンケート結果、今後の検討課題について

1 MSPAの活用状況に関するアンケート結果(平成30年12月実施)

- ・ MSPA有資格者あり … 4件(小児科2、精神科2) / 311件(医療機関、福祉事業所、相談機関)
- ・ 有資格者の人数・内訳 … 小児科 5名 (医師3・臨床心理士2)  
精神科10名 (医師1・臨床心理士8、精神保健福祉士1)
- ・ 活用実績あり … 3件(小児科2、精神科1) / 311件(医療機関、福祉事業所、相談機関)
- ・ 活用した感想 … 有用、特性がわかりやすく説明しやすい、活用には発達障害(特にASD)の十分な理解が必要であり、結果を解釈(読み解く)するためにも発達障害の知識が必要

2 今後の検討課題

(1) MSPA評価の方法

ライフステージごとの評価実施方法、MSPA評価への「つなぎ方」

(2) 評価結果の活用方法

評価結果の伝え方、支援への反映、他のアセスメントとの併用 など

(3) 評価・支援体制の構築支援の内容と質の向上

評価者の確保・育成、評価結果の情報管理・共有

【第3回】平成31年2月14日(木) … 事例検討会(拡大会議) 開催

1 目的

MSPAを用いることで、発達障害の基本特性がどのように見えてくるか、事例を通じて学ぶ

2 概要

- ・ 市内小児科医(3名)より事例発表、研究会構成員と意見交換
- ・ コメンテーター(Web経由)… 京都大学大学院人間・環境学研究科 天下谷 恭一 氏 (臨床心理士)
- ・ 参加(傍聴)97名(医師、臨床心理士、福祉関係者、教育関係者等)

3 参加者アンケート ※詳細別紙

- ・ MSPAについて … 理解できた 73名(理解できた 12 少し理解できた 61)/97名
- ・ 事例発表について … 理解できた 79名(理解できた 32 少し理解できた 47)/97名
- ・ 内容が自分の業務に活かせるか … 活かせる 76名(大いに 24 いくらか 52)/97名

【第4回】平成31年3月25日(月)

1 研究会における議論のまとめ

※ 別紙をもとに意見追加

2 (仮称)地域協議会への移行について

- ・ 発達障害者支援アセスメントツール研究会については、平成30年度末を目途に立ち上げ予定の(仮称)北九州市発達障害者支援地域協議会に統合し、平成31年度も引き続き活動する。
- ・ (仮称)地域協議会では研究会の議論を踏襲し、MSPA(発達障害の要支援度評価尺度)を活用した特性評価と多職種による支援の仕組みについて研究を進める。

3 今後の検討課題(案)

※ 別紙をもとに意見交換

【その他関連事業】

- ・ Web講演会(北九州市医師会主催、北九州市共催)  
日 程 平成30年11月10日(土)  
演 題 MSPAの概説  
講 師 京都大学大学院 人間・環境学研究科 船曳 康子 教授